

風土記の丘の花だより⁵⁰

今、そしてこれから見られる植物(8月30日)

このたよりも今回で50号になりました。去年の途中から始めて、風土記の丘の植物を紹介して参りましたが、数えてみると、すでに130種類をこえていました。まだまだたくさんの植物があるので、これからもできるだけ多くの植物を紹介していきたいと思います。ご愛読のほど、よろしくお願いします。



ヌスビトハギの小さな花が咲いています。漢字で書くと「盗人萩」です。マメ科の植物で、豆ができれば観察してください。さやの形が泥棒の抜き足差し足のつま先の形に見えます。写真では全体像が分かりづらいですね。草自体は大きいですが、花の一つ一つは数mm程度しかありません。またそのうちに、もっと色の濃いアレチヌスビトハギも咲き始めることでしょう。



「こんな草にも名前があります」というと、この草に失礼ですね。でも多くの人はこの草を「オオアレチノギク」なんて呼ばないですよ。ただの「くさ」ですよ。大きくなると2メートルを超す、厄介な雑草です。明治維新の頃に日本に入ってきた外来植物で当時はよく似たヒメムカシヨモギとともに「ご維新ぐさ」と呼ばれていたそうですよ。



散歩をしていると、道の脇に茎が赤紫色の背丈ほどもある大きな草が生えているのに気づきませんか？ヨウシュヤマゴボウです。草はとても大きいのですが、花はとても小さく可憐です。でも実ができると、花のイメージとは打って変わって赤黒い実がブドウのように実ります。外国では「インクベリー」と呼ばれ、水遊びに使うときれいな色になります。



前回のゲジゲジシダは見つけれましたか？今回もまたシダを一つ紹介します。トラノオシダです。地面より乾き気味の石垣などに多く生えます。トラの尾に見えるでしょうか？ダイガースファンなら、そう見えるかもしれませんね。花は咲きませんが、シダも面白いですよ。これからも少しずつ紹介していきます。 松下

風土記の丘の花だより⁵¹

今、そしてこれから見られる植物(9月9日)

大きな台風が続けて来ましたが、幸い、この辺りは大きな被害もなく良かったです。雨はいくらか降ってくれるようになりましたが、相変わらずの猛暑にはうんざりしてしまいます。引き続き、熱中症には気をつけてください。



前回で予告しましたアレチヌスビトハギのピンクの花が咲き出しました。気の早い株にはもう小さな豆も付いていました。衣服にくっついて、やっかいな草ですが、花がきれいなのでついつい紹介したくなります。ヌスビトハギの開花から20日ほど遅れての開花は、去年の記録を見てもだいたい同じです。野生の草花はたいしたものです。



衣服にくっつく「ひっつきむし」が続きます。イノコズチです。今まではヒナタイノコズチとヒカゲイノコズチに分けていましたが、このごろは区別しなくなっただけです。(たよりない話ですみません) この草の花は「花」というイメージがありませんが、園芸種では、ケイトウやセンニチコウなどと同じヒユ科の植物です。草の茂った道を歩くとたくさんくっついてきて、小さいので取るのが面倒です。ヘクソカズラの花もきれいです。ヘクソとは「おならとウンチ」、悪臭を発することからこんな不名誉な名前を付けられています。花はとてもきれいです。真ん中が赤いので「やいとばな」とか、そのかわいらしさから「早乙女かずら」などの異名もありますが。どなたもあまりそんなに呼びませんね。



今回もシダを一つ紹介します。先がピューっとのびているのが大きな特徴で、すぐに見分けがつくシダです。名前はホシダ。漢字では「帆羊歯」と書くそうですが、どこをどう見たら舟の帆に見えるのでしょうか。想像力を働かせながら観察してください。いちばん普通に生えているシダと言っても過言ではないでしょう。すぐに見つかるはずですよ。 松下



風土記の丘の花だより⁵²

今、そしてこれから見られる植物(9月13日)

朝夕、いくらか過ごしやすくなりました。気がつけばもう9月中旬です。まとまった雨が降ったせいか、園内のあちこちでキノコがたくさん顔を出しています。



今、クズが花盛りです。フジの花を逆さにしたような形で、紫色の花がよく目立ちます。安藤塚を一回りするとたくさんの花を見ることができます。また、園路沿いの日当たりのよい所でも見ることができますが、なにしろ延びて延びてやっかいな草だけに、除草のターゲットになってしまいます。根からはくず粉も取れるし、葛根湯も作れるし、有用植物であると同時に、害草でもあるのです。



コナギが万葉植物園の水生植物の鉢の中で咲いています。お米作りをされている方には、害草のイメージがあると思いますが、花だけ見ればとても可愛いものです。茎の途中につぼみが見えて、もうすぐ咲くのかなと思いき、後から見に行くと花が終わっていたりします。どんなタイミングで開花するのでしょうか。この写真もきれいに開いていません。



これも水田に生える雑草で、チョウジタデです。先日、園内にある小さな池、通称「新池」に下りて、周辺の植物の調査をしました。その時に撮ったのがこの写真です。ですから、残念ながら上からはご覧になれません。この草をはじめ、多くの種類の植物が育っていました。この植物、タデと付きますが、アカバナ科の仲間です。



また今回も分かりやすいシダを紹介します。ご存知ゼンマイです。食用としてのクルクルしたぜんまいは見慣れています。葉はこんなに大きいのです。民家脇の斜面などによく生えています。ところで、前回紹介したホシダですが、「帆羊歯」ではなく、「穂羊歯」と書いた本を見つけました。「穂」なら、納得できそうな気がしますね。 松下

風土記の丘の花だより⁵³

今、そしてこれから見られる植物(9月20日)

朝夕、涼しくなってきました。吹く風にも秋を感じます。先日、「フトシ先生と観る風土記の植物」と題して、秋の草花の観察会を開催しました。6人の方がご参加くださり、わきあいあいと楽しく観察が出来ました。次回は11月28日(土)です。ご興味にある方は是非ご参加ください。



道端のキンエノコロに穂がでて、秋の風に揺れています。普通のエノコログサよりもまっすぐな穂です。色も緑色ではなく薄い茶色で、それが光の加減で金色に輝くのです。普通のエノコログサも、大きく曲がった穂のアキノエノコログサも、このキンエノコロも3種類のエノコログサが見られます。



前山A99号墳の周辺では、ツリガネニンジンがきれいです。足元のササをかき分けて近づいても、遠くから眺めてもいいでしょう。釣り鐘状のきれいな薄紫の花がいくつもぶら下がっているように咲きます。名前にニンジンと付きますが、ニンジンの仲間セリ科ではなく、キキョウ科の植物です。根が太くなり、ニンジンのようなので、こんな名前が付きました。



同じく、前山99号墳の周辺には、ワレモコウもたくさん咲いています。一見、花のようには見えませんが、これでもバラ科の植物です。濃い赤茶色で、マッチ棒の先のような形の花です。漢字でかくと「吾亦紅」や「吾木香」と書きます。どちらも当てはまりそうですが、私はその香りを確かめたことはありません。「紅」の方が当てはまりそうですね。



山頂の展望台の石垣の下にハタケニラの白い花がきれいに咲いています。ニラに似ていますが、ニラ独特の香りはありません。最近、道端でもよく見かけるようになりました。でもこの植物はこの辺りに自生するものではありません。園芸種が逃げ出したのでしょうか。今回は、シダの紹介は省略しました。悪しからずご了承ください。松下

風土記の丘の花だより⁵⁴

今、そしてこれから見られる植物(9月27日)

一雨毎に涼しくなっていくのを実感します。ヒガンバナが咲きそろい、いよいよ秋ですね。ハギもススキも次の満月「仲秋の名月」を待っているようです。イタドリの



花が咲いています。それほど派手な花ではありませんが、涼しげな花です。イタドリはタデ科の植物で、漢字では「痛取」と書くのが一般的です。体の痛みを取り去る薬草として使われてきたのです。また、春の芽だしの頃には、大きな新芽をてスカンポとか、ゴンパチとか呼んで、山菜として珍重されます。大日山35号墳にもたくさん咲いています。



道沿いの垣や木の枝にスズメウリが巻き付いて、白い小さな花を咲かせています。もう小さな丸い実も出来ています。スズメはちゅんちゅん鳴く雀のことで、植物の名前でよく似たものの小さい方によく付ける言葉です。一方、大きい方にはカラスと付けます。風土記の丘ではカラスウリは少ないですが、スズメウリはあちらこちらでよく見かけます。



春にハクモクレンやコブシが咲く花木園の南側の道沿いにヤブマメの群落があります。いま、紫色の花がたくさん咲いています。花がなければ、ただのうっとうしいつる草ですが、花がかわいいので刈り取らずに、残してあげてほしいものです。名前のおり少し薄暗いところが好きなようです。逆に明るい所にはツルマメが生えます。葉が細長く、花はもっと明るいピンク色です。また探してみてください。



前回お休みしましたが、また、シダを少しずつ紹介します。これはフユノハナワラビです。ワラビと付きませんが全然違う仲間です。よく見かけるシダとはちょっと様子が違いますね。真ん中に立っているのは胞子を付ける茎です。胞子のうを葉の裏にプチプチと付けるのではなく、こんなシダもあるのです。万葉植物園の展望台の周辺に生えています。松下

風土記の丘の花だより⁵⁵

今、そしてこれから見られる植物(10月2日)

早いもので、もう10月です。野山はすっかり秋の装いになりました。ハギの花がこれからますますきれいになってきます。一口にハギと言ってもいろいろな種類があります。その中で一つだけ覚えてください。パッと見て他より白っぽく見えるのがツクシハギです。散歩の途中で「これがツクシハギだ」と分かると楽しいですよ。では



アキノノゲシ

秋の花で「アキ」と付く花をまず紹介します。

アキノノゲシです。春から夏に咲くハルノノゲシは花の色が濃く、茎が頑丈で、葉に刺があるのに対して、これは花の色が薄く、茎もナヨっとして、刺もありません。秋の風にゆらゆらと揺れているイメージがあります。2つめはオオオナモミです。何と「オ」が3つも続きます。修復古墳の西斜面に生えています。空き地や荒れ地にたくさん生えている大型の雑草ですが、ここでは格好の草刈りの対象になってしまい、難を逃れた株だけが成長し「ひつつき虫」を付けることができます。「オオ」は大きい、三つ目の「オ」も大きいという意味です。「もなむ」というのは、しつこくくつつくという意味で、この実が衣服にくつつくことが語源だと言われています。ちなみに風土記の丘には「メナモミ」も、さらに小さい「コメナモミ」も生えています。3つめはオケラです。万葉植物園でたくさん咲いています。前山A100号墳周辺の自生の株も今年は咲きそうです。花を手にとって観察する際には鋭い刺に注意してください。この花は名前こそおかしですが、絶滅危惧種に指定されている貴重な植物です。大切にしてください。



オオオナモミ



オケラ



アカザ

最後はアカザの花です。花木園のかつて倒木を積んでいた所に生えています。葉の一部が赤いのですぐにわかります。花といっても、花らしくないですね。人の背丈より大きく成長します。葉の赤い部分が白いシロザもあり、草むらなどでよく見かけます。

今回、来園者の方からのご要望もあり、写真に名前を入れました。少しは見やすくなったでしょうか。 松下

風土記の丘の花だより⁵⁶

今、そしてこれから見られる植物(10月11日)

甲高く鋭いモズの鳴き声が響いています。秋ですねえ。



ツクシハギ



ニシキハギ

前回紹介した白っぼいハギ、ツクシハギはお分かりになりましたか？万葉植物園の前の通路沿いは、ほとんどこのハギです。たしかに白っぼいですね。ちなみに資料館の前の芝生に植えられているのはニシキハギです。全体に

赤く見えます。同じハギでもずいぶん違いますね。でも、そろそろハギのピークも過ぎたようですね。



ポントクタデ



ヤナギタデ

次によく似たタデを紹介します。ポントクタデとヤナギタデです。ポントクとは「ぼーっとしている」という意味で、ピリっとしない、要するに辛くないタデです。細長く、曲がる花穂（かすい）に小さな白い花を

付けます。ヤナギタデは葉が細長くヤナギのようなのでこの名前が付いています。花の付き方はよく似ています。ヤナギタデは「ほんたで」と言われるくらいで、辛くて食用になります。葉をかじってみてください。特にこれを薬味にして鮎の塩焼きを食べると絶品らしいです。ポントクは万葉植物園の水生植物の周辺、ヤナギは花木園の草むらの中などに生えています。

最後は名前に「ボロギク」と付く、左のダンドボロギクと右のベニバナボロギクです。「ぼろ」はご承知のように古くなった布や衣類のことです。これらの花の後にできる綿毛が雨に濡れると、まるでぼろ布のようにみえることから名付けられました。ダ



ンドは地名、ベニバナは「紅い花」のことです。キク科にはよくあることですが、どちらも花びらのない花です。葉をかじるとシュンギクの味がしますよ。 松下

風土記の丘の花だより⁵⁷

今、そしてこれから見られる植物(10月18日)

ハゼノキの葉が赤くなり始めました。大池のカルガモもずいぶん増えてきました。これから花も虫も少なくなってきますが、秋の風情を楽しむには良い季節になってきますね。



ミゾソバ

万葉植物園の向かって左にある小さな池でミゾソバが満開です。ミゾソバは名前からもわかるように、ソバと同じ仲間、タデ科の植物です。

水辺に生えるので、「溝」と付いているのでしょうか。葉は牛の顔のような形です。一度ご覧になってください。別名を「牛の額」というのも頷けます。小早川家の南の石垣の上にも少し生えています。



コセンダングサ

コセンダングサの黄色い花も目立ってきました。背丈ほどもある草です。秋が深まるとこの草の細長いひつつき虫が衣服に付いてやっかいです。でも今はこの黄色い花を楽しみたいものです。センダンとは初夏に花を咲かせる大きな木「センダン」(古名・あふち)のことです。葉の様子がそのセンダンに似ていることから名付けられました。たまに、花びらのあるタイプも見かけますが、ほとんどは写真のように花びらがありません。



イノコヅチの虫こぶ

イノコヅチも小さなひつつき虫をたくさん付ける草です。その茎の節々が写真のように膨らんでいることがよくあります。これはイノコズチウロコタマバエという小さな虫が作った「虫こぶ」です。この様子がイノシシの足の関節ににているのでイノコヅチとつuitaと言われていました。(ちなみに、植物はイノコヅチ、でも虫はヅではなく、イノコズチです。)



サンシュユ

最後はサンシュユです。修復古墳の北斜面、向かって左にあります。春には真っ黄色の花を咲かせましたが、その実が真っ赤に色づいてきました。ついでに葉の裏もご覧下さい。ある特徴に気づきますよ。また、今回もシダはお休みにしました。 松下

風土記の丘の花だより⁵⁸

今、そしてこれから見られる植物(10月25日)

ハギの花も終わり、秋が日に日に深まっていくのを実感します。咲いている花も少なくなってきました。でも、山歩きには快適な季節になってきました。

黄色いツワブキの花があちらこちらで咲き始めています。これからもっと寒くなっ



ツワブキ

てきても咲き続けることでしょう。ツワブキの葉はフキのような形ですが、つやがあって分厚いです。じつは、万葉植物園には別の種類のツワブキが植えられています。カンツワブキといいます。葉のギザギザがはっきりしていますが、他にはそれほど違いはありません。花が咲くと違いがハッキリします。入って左側のネムノキの近くを探してみてください。



ガマズミの実

同じく万葉植物園の入り口にはガマズミの真っ赤な実がなっています。初夏には真っ白な花を咲かせたくさんの虫を集めていましたが、その虫のおかげで受粉できこんな実ができたのです。実には毒はありませんが、食べるととても酸っぱいです。所々にうす緑色の大きな丸い物が混じっていますが、これは虫こぶです。



アブラスキ

道の脇の草むらから細長い草がにゅーっと伸びて、茶色の穂を垂らしているのを見かけませんか？それはイネ科のアブラスキです。おそらく普段は気に留める方はいないだろうと思います。イネ科の雑草はどれも細長く、よく似ていて、華やかな花も咲かないのでほとんど見向きもされませんね。この草の穂は名前のおり油を塗ったように少しヌルッとしませず。船屋の南の斜面にも多いです。



イノモトソウ

また、久しぶりにシダを紹介します。イノモトソウです。細い茎から細長く波打った葉がまるでモミジの葉のように何枚も出ています。名前が「なんとかシダ」ではなく、「ソウ」と付くので、まるで草のようですが、シダなんですねえ。ですから、いつまで待っても花は咲きません。

松下

風土記の丘の花だより⁵⁹

今、そしてこれから見られる植物(11月1日)

早いものでもう霜月、11月です。朝夕の冷え込みとともに、風土記の丘でも秋の草花が咲き出しました。今いちばん見頃なのがセンブリです。センブリは昔からよく知られた薬草で、「千回ふりだしても（煎じても）薬効がある」ことから名付けられました。白い花びらが、



センブリ

5枚、または4枚あります。おしべの先が紫っぽくて、少し黄色も見えます。小さいですがとても清楚な花です。前山A地区の急な上り坂の横の斜面に群生しています。名札を付けていますから、すぐに見つかると思います。坂の途中で一息つきながら、ゆっくりご鑑賞ください。



アキノキリンソウ

同じく前山A地区の100号墳辺りではアキノキリンソウの黄色い花が咲いています。少し堅めの茎に小さくて黄色い花がたくさん付いて咲きます。写真は小さめの株ですが、大きなものでは30cmを超えます。周りは丈の高い草でいっぱいですが、この黄色は遠くからでもよく目立ちますので、見つけやすいと思います。周りにはワレモコウがまだきれいに咲いています。万葉植物園の入り口付近には白いリュウノウギクの花が咲き出しています。里山の野菊の代表のような花です。リュウノウは「龍腦」と書き、昔の香料というか、薬とうか、今でいうアロマセラピーのようなものというか、そんなものらしいです。



リュウノウギク

（私も詳しくわかりません）それに似た香りがするので名付けられたといいますが、何しろ、龍腦の香りを知りませんから、どうしようもありません。



ウラジロ

今回もシダを一つ紹介します。お正月のお飾りでもお馴染みのウラジロです。葉の裏が白っぽいので裏白です。そのまんまの名前ですね。林の下草として群生します。茎は木のように固く、ポキッと折れます。ところで、どうして、このシダをお正月に飾るのでし

ょうか。それも私は知りませんが、なにか理由があるのでしょうか。

松下

